

和歌山大学クリエイティブ映像制作プロジェクト
短編映像の制作による後進育成
作成:ミッションリーダー 和田涼平

1. 目的

このミッションの大きな目的は一年生が映像制作に慣れるというところにある。クリエイティブ映像制作プロジェクトに加入してくるほとんどの一年生は、映像制作というジャンルに携わってこなかった学生である。しかし、分からないから何もしないのでは加入した意味がない。クリエイティブ映像制作プロジェクトの活動において重要なことは企画・撮影・編集といった映像制作のプロセスの把握やカメラ、編集ソフトの取り扱いに慣れることである。それらを一年生に落とし込んでいくためには、一年生自身が自分の表現方法で映像制作をすることが必要だと考えた。

この「一年生が映像制作に慣れる」という目的のための小目的としてカメラ・編集ソフトなど各種機材の取り扱いに慣れる、コンテストや賞などの明確な目標(今年度であれば「My Japan Award 2015」)を立てることが挙げられる。

2. 目標

このミッションにおける大きな目標は知識・技能の定着と一年生の今後のクリエイティブ映像制作プロジェクトの活動におけるモチベーションの維持である。

知識・技能の定着の主な内容はスケジュールリングの管理や作品の企画の仕方、カメラの取り扱い方など映像制作に必要な知識・技能を一年生が習得することである。またこの知識・技能の定着はそのままモチベーションの維持へとつながると考える。モチベーションの維持については、「My Japan Award 2015」への出展・入賞が主な内容である。目標も無くただやみくもに作品を作ったとしてもやる気が持続せず、作品を作っても楽しくない。やはり具体的な締切が指定されており、尚且つ作品のテーマが決まっている映像コンテストへの出展、そして入賞を目指すことがモチベーションの維持へとつながると考えた。

3. 主な活動内容

My Japan 主催の「My Japan Award 2015」という映像作品のコンテストへの出展に向けて、一年生を1つ2人～3人の班に分け、それぞれの班でテーマに沿った30秒程度の短編映像を一本制作する。一年生はほとんどが映像制作未経験者であるので、その基礎となる映像の企画・撮影・編集といったプロセスを把握した上で、それらを自分たちで行う。またカメラの操作や照明の当て方、編集の方法などは二年生が講習会を開いて随時一年生に学んでもらう。企画の段階では一年生だけでアイデアを出すことは難しいと考え、二年生が企画会議に赴き、アイデア出しに協力した。また撮影に関しては二回生が補助として撮影に参加したが、編集も含め、全体を通して一年生が主体となって制作を進めた。

4. 具体的な活動内容

機材講習会

カメラや照明、編集ソフトの基本的な取り扱い方を学ぶために行った。上述の通り、一年生はほとんど映像制作の経験がないので、カメラに関しては電源や録画ボタンなどの本当に基礎的な操作の講習を行った。照明の講習については、より実践的な使用方法を学ぶために薄暗くなった後でクリエ棟の裏手の駐車場で実際に照明を使ってどのようにすれば光をうまく当てることができるのかという講習を行った。編集ソフトの取り扱いについては昨年度に制作した映画の編集画面を例にとってソフトの機能や効率的な編集の方法について講習を行った。



図1. 編集ソフトの講習に使った編集画面

ミーティング・絵コンテの作成

一年生を1つ2人～3人の班に分けて、それぞれが企画・撮影・編集という3つのプロセスを踏んで一本の映像を制作するのだが、ミーティングはその企画に相当する。この企画の段階が映像制作にとって最も肝心な部分である。そのため企画の期間は映像制作のプロセスの半分(約1カ月～2カ月)を要している。企画の段階では映像の中身の決定、作品制作のスケジュールの管理を主に話し合った。映像の中身については同じ班の一年生がそれぞれに意見を交換してアイデアを出し合って決定した。今年度作品を出展した「My Japan Award 2015」は「世界がビックリする、日本のローカルな文化」をテーマに、典型的な日本の文化しか知らない外国の若者をターゲットとしていた。そのため一年生はそのことを意識した作品作りを、そして二年生は一年生がテーマから脱線しないよう助言を与えることを意識した。また絵コンテも企画の段階で作成した。

出演交渉・撮影場所の確保

今回のCM制作において人の出演が必要であったので、出演交渉が必要となった。しか

し、一年生の最初の映像制作であることと外部の方をお呼びして出演していただくような予算もなかったために、主に一年生のメンバーが相互に各々の作品に出演することになった。

また撮影場所はほとんど大学の構内で行ったものであり、大学への届け出が必要になった。ここに関しても一年生が直接学生支援課に直接赴いて許可を得た。またメンバーの自宅をお借りして撮影を試みた班もあり、その際にはメンバーの親御さんにはしっかりとお礼をするようにとの指導を行った。

小道具の調達・作成

映像の撮影のために必要となる小道具を調達・作成した。どのような小道具を使うかは企画の段階で決定しており、それほど手に入りにくい・作るのが難しいものでもなかったため、この作業は比較的スムーズに進めることができた。

しかし、メンバーの一人が偶然持っていた私物を小道具として使ったり、一人のメンバーだけで小道具を用意したりするなど、今後の活動においてもっと用意に準備がかかるものに取り組む際に苦労するのではないかと考えており、反省すべき点であろう。

映像の撮影

撮影においては二年生が最低1人付き添って、一年生がカメラを正しく操作できているか、安全に操作できているかの確認を行いながら作業を進めていった。上述の機材講習会では屋内や薄暗い屋外など、一定の環境下での講習であったため一年生が撮影環境の変化に戸惑う場面もあった。そのときには二年生が助言して難を逃れたが、このように実際の撮影を通してでしか分からないこともあるので、今回のようなトラブルも一年生の糧となったと考える。

編集

撮影が終わった後は編集に取り掛かった。この編集作業においても班のメンバーで協力して進めていった。この段階において編集作業の講習会で知った知識を自分で思い出し、絵コンテのイメージ通りに撮影した映像を組み上げていくためにその知識を使うことで編集に慣れることができたと考える。

映像の手直し

完成した作品をプロジェクト内の試写会で視聴して改善すべき点を見つけ、その点を撮り直したり編集し直したりすることで手直しを行った。その後無事「My Japan Award 2015」に出展することができた。



図2. 1班の作品「すみません」



図3. 2班の作品「女子高生」



図4. 3班の作品「お弁当」



図5. 4班の作品「母の愛情」

5. 結果・成果

「My Japan Award 2015」の結果は、「すみません」という作品が第一次選考を突破したものの、入賞することはできなかった、というものであった。成果としては、映像制作の経験が無かった一年生が実際に映像を作ることで映像制作がどういうものかを知ることができた、カメラや編集ソフトに実際に触れて慣れることでその後の活動につなげることができたという二点が挙げられる。このミッションにより、映像制作のことを知るだけでなく一年生同士の交流も行うことができたと思う。また二年生は一回生のときに学んだことをもう一度思い出す機会にもなった。

6. 今後の課題・展望

クリエイティブ映像制作プロジェクトは去年度にNHK全国大学放送コンテストの映像CM部門で優勝していただけたのに、今回「My Japan Award 2015」一次選考突破という結果は残念なものであった。今回このような結果に終わった反省点は、スケジュール管理のいたらなさや高すぎる目標の設定にあると思う。一年生は所属する学部がばらばらで、ミーティングをするにしてもなかなか時間を合わせる事ができていなかった。しかしそれは私が一年生のときでも同じだったので、ミッションリーダーである私の責任であろう。成果報告会のポスターセッションでもご指摘いただいたのだが、一年間のスケジュールをあらかじめ作っておく必要があると感じた。目標設定についてもポスターセッションにて、入賞を100%の目標とできないような状況であるならばその目標を立てる意味はないというご指摘をいただ

き、入賞を 120%、一次選考突破を 100%の目標とした方が良いと感じた。今回のこの反省を来年度の活動につなげられるようにしっかりと新二年生にフィードバックしていきたい。

7. 感想

今回ミッションリーダーを務めて分かったことは、いかに他人を動かすことが難しいかということと、いかに年下とのコミュニケーションが難しいかということである。私は自分で何でもやってしまう性質であり、このミッションにおいてもつい一年生の作業に首を突っ込んでしまうということがあった。しかしこれは一年生を信用していないというわけではなく、むしろ良い作品を作ってもらいたいという一種の親心から来るものだと思う。もう少し一年生を信頼していればもっと良い作品ができたのではないかと後悔している。